

# 内分泌・代謝学 I

## Endocrinology and Metabolism I

単位数：5単位

○杉本利嗣 教授：内科学第一  
矢野彰三 准教授：臨床検査医学  
金沢一平 講師：内分泌代謝内科  
竹谷 健 講師：輸血部

山内美香 准教授：内科学第一  
山本昌弘 講師：内分泌代謝内科  
金崎春彦 准教授：周産期母子医療センター

### 1. 科目の教育方針

内分泌・代謝学の講義・演習では、小児から高齢者まで幅広い年齢層における内分泌・代謝に関わる疾患の病因、病態、治療法の原理について広く学ぶ。先天代謝異常症、視床下部-下垂体-卵巣系の異常症、カルシウム・骨代謝異常症、生活習慣病の病因・病態さらには排卵・受精・着床現象の内分泌的しくみについて、酵素学、遺伝学、細胞内情報伝達学、分子生物学そして臨床統計学の観点から学ぶ。

### 2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 遺伝的酵素異常に基づく代謝障害の病態並びに先天代謝異常症の食事療法、薬物療法の考え方を理解する。
- 2) 内分泌・代謝学をめぐる問題を、生殖医学、産婦人科学、細胞内情報伝達学の立場から理解する。
- 3) カルシウム・リン・ビタミンDと骨代謝調節機構並びにその破綻でおこる疾患の病因・病態・治療法を理解する。
- 4) 生活習慣病（糖尿病、高脂血症、慢性腎臓病）と骨粗鬆症の病態の分子生物学的解析並びに臨床統計学的解析を習得する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 先天代謝異常の分類法、診断法の原理並びに病態に応じた治療の原則を説明できる。
- 2) 排卵、受精、着床現象を内分泌学、細胞内情報伝達学的に説明できる。
- 3) カルシウム・骨代謝疾患の病因・病態並びに治療の原則を説明できる。
- 4) 生活習慣病の病態を分子生物学的並びに臨床統計学的観点から説明できる。

### 3. 教育の方法、進め方

講義、セミナー、研究カンファレンスでの討論。

### 4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

新遺伝子工学ハンドブック 改訂第4版 村松正実、山本雅 羊土社  
 日常臨床にすぐに使える臨床統計学 能登洋 羊土社

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	先天代謝異常学1 (総論)	竹谷 健
2	先天代謝異常学2 (体液性疾患)	竹谷 健
3	先天代謝異常学3 (蓄積性疾患)	竹谷 健
4	先天代謝異常学4 (先天代謝異常の治療概論)	竹谷 健
5	生殖内分泌学 1. 視床下部-下垂体-卵巣系の調節機構	金崎春彦
6	生殖内分泌学 2. 受精・着床におけるホルモンの役割	金崎春彦
7	生殖内分泌学 3. 女性性腺と卵巣機能低下症	金崎春彦
8	下垂体ホルモンの産生・分泌機序における細胞内情報伝達系	金崎春彦
9	カルシウム・リン・ビタミンD・骨代謝調節機構	杉本利嗣
10	カルシウム・リン・ビタミンD代謝異常症の病因・病態解析	杉本利嗣
11	代謝性骨疾患の病因・病態解析と治療法の確立への展開	杉本利嗣
12	糖尿病、高脂血症と骨代謝調節機構概論	山内美香
13	統計学手法による糖尿病、高脂血症と骨粗鬆症の臨床研究法	山本昌弘
14	骨代謝、エネルギー代謝調節機構の分子生物学的研究法	金沢一平
15	慢性腎臓病におけるカルシウム・骨代謝異常	矢野彰三